

# 県政サポーターアンケート 「ケアラー及びヤングケアラーについて」調査結果

## (内容)

1. 回答者の属性
2. 調査結果の概要
3. 調査結果の概要（自由意見）

令和 2 年 1 月 2 6 日

# 県政サポーターアンケート調査の概要

## 調査目的及び主な調査内容

### 【調査目的】

・ケアラーやヤングケアラーに関する認識や支援のあり方について把握し、計画の策定に役立てる。

### 【主な調査項目】

・ケアラーやヤングケアラーの認知度について ・ケアに関する相談について ・支援について など

### 【調査方法】

・インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答

### 【調査対象】

・県政サポーター3,322人(内・県内在住：3,061人)

### 【回答者数】

・2,239人（回収率67.4%）、(内・県内在住：2,052人（回収率67.0%）)

## 調査結果の見方

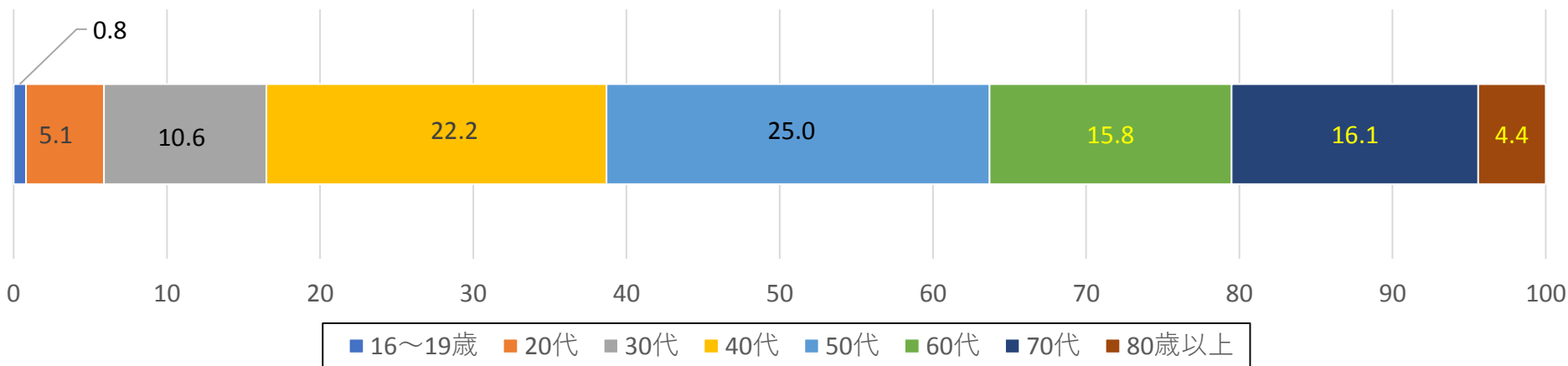
- 回答比率（%）は小数点以下第二位を四捨五入したため、個々の比率の合計と全体またはカテゴリーを小計した数値が、100%にならないことがあります。
- 複数回答の質問については、その回答比率の合計は、100%を超える場合があります。
- 本調査結果では、埼玉県内在住のサポーターからの回答をもとに算出しています。

# 1. 回答者の属性

# 1-1 回答者の年齢

- 回答者の年齢（N=2,052）は、「50代」（N=513）が25.0%と最も高く、次いで「40代」（N=455）22.2%、「70代」（N=330）16.1%の順であった。

図表1-1. 回答者の年齢分布の割合



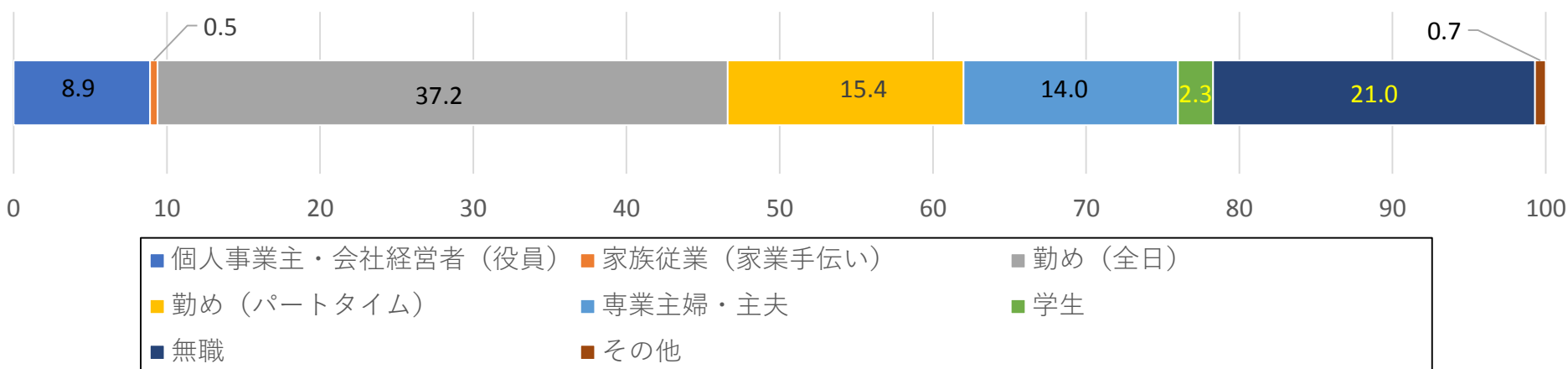
	16～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
回答者数 (N=2052)	16	104	218	455	513	325	330	91
割合 (%)	0.8	5.1	10.6	22.2	25.0	15.8	16.1	4.4

注)本集計は回答者数(2,052人)に対して行っている。

# 1-2 回答者の職業

- 回答者の職業（N=2,052）は、「勤め（全日）」（N=763）が37.2%と最も高く、次いで「無職」（N=431）21.0%、「勤め（パートタイム）」（N=316）15.4%の順であった。

図表1-1. 回答者の職業の割合



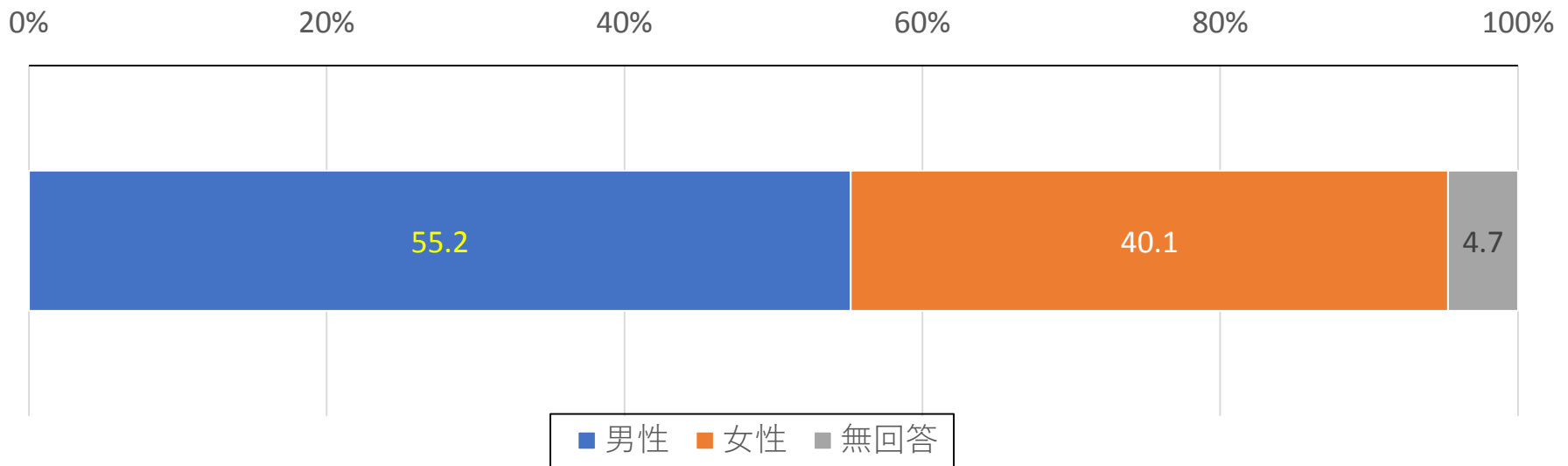
	個人事業主・会社経営者（役員）	家族従業（家業手伝い）	勤め（全日）	勤め（パートタイム）	専業主婦・主夫	学生	無職	その他
回答者数（N=2052）	183	10	763	316	288	47	431	14
割合（%）	8.9	0.5	37.2	15.4	14.0	2.3	21.0	0.7

注)本集計は回答者数(2,052人)に対して行っている。

# 1-3 回答者の性別

- 回答者の性別（N=2,052）は、「男性」1,133人(55.2%)、「女性」822人(40.1%)、「無回答」97人(4.7%)であった。

図表1-3. 回答者の性別の割合



	男性	女性	無回答
回答者数(N=2,052)	1,133	822	97
割合 (%)	55.2	40.1	4.7

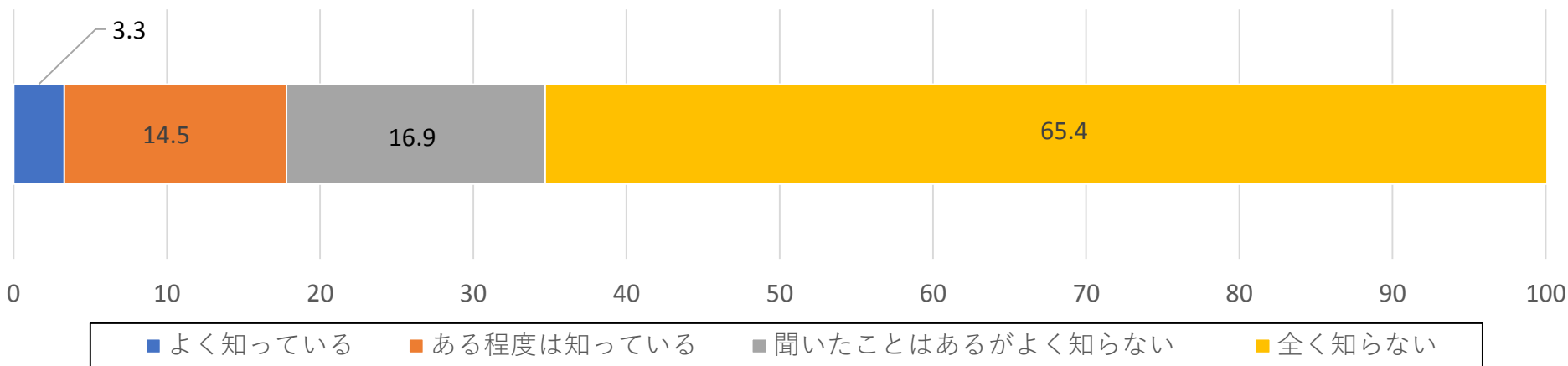
注) 本集計は回答者（2,052人）に対して行われている。

## 2. 調査結果の概要

## 2-1 ケアラーの認知度

- 「ケアラー」という言葉の認知度（N=2,052）をみると、「全く知らない」（N=1,341）が65.4%と最も高く、次いで「聞いたことはあるがよく知らない」（N=346）16.9%、「ある程度は知っている」（N=297）14.5%と続く。

図表2-1. ケアラーの認知度の割合



	よく知っている	ある程度は知っている	聞いたことはあるがよく知らない	全く知らない
回答者数 (N=2052)	68	297	346	1,341
割合 (%)	3.3	14.5	16.9	65.4

注)本集計は回答者数(2,052人)に対して行っている。

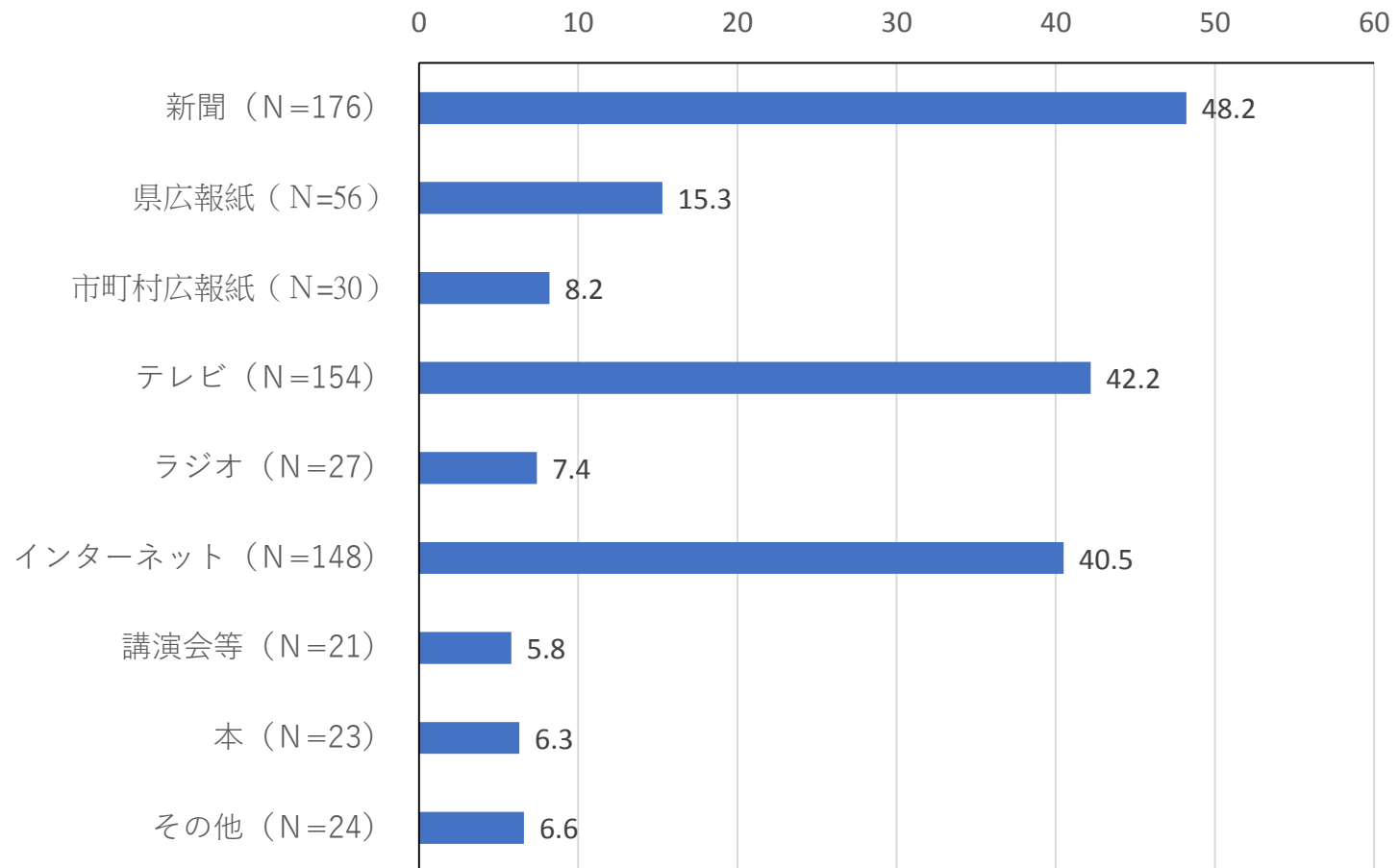


## 2-2 「ケアラー」という言葉を知ったきっかけ

- 「ケアラー」という言葉を知ったきっかけ（N=365）をみると、「新聞」（N=176）が48.2%と最も高く、次いで「テレビ」（N=154）42.2%、「インターネット」（N=148）40.5%と続く。

図表2-2. 「ケアラー」という言葉を知ったきっかけ（複数回答）

単位：%

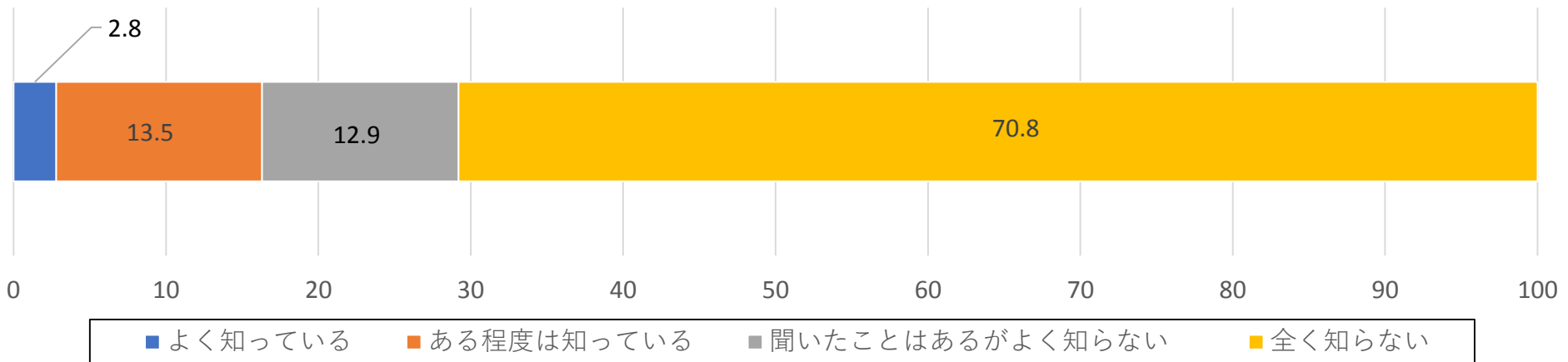


注)本集計は回答者数(365人)に対して行っている。

## 2-3 ヤングケアラーの認知度

- 「ヤングケアラー」という言葉の認知度（N=2,052）をみると、「全く知らない」（N=1,452）が70.8%と最も高く、次いで「ある程度は知っている」（N=278）13.5%、「聞いたことはあるがよく知らない」（N=264）12.9%と続く。

図表2-3. ヤングケアラーの認知度の割合



	よく知っている	ある程度は知っている	聞いたことはあるがよく知らない	全く知らない
回答者数 (N=2052)	58	278	264	1,452
割合 (%)	2.8	13.5	12.9	70.8

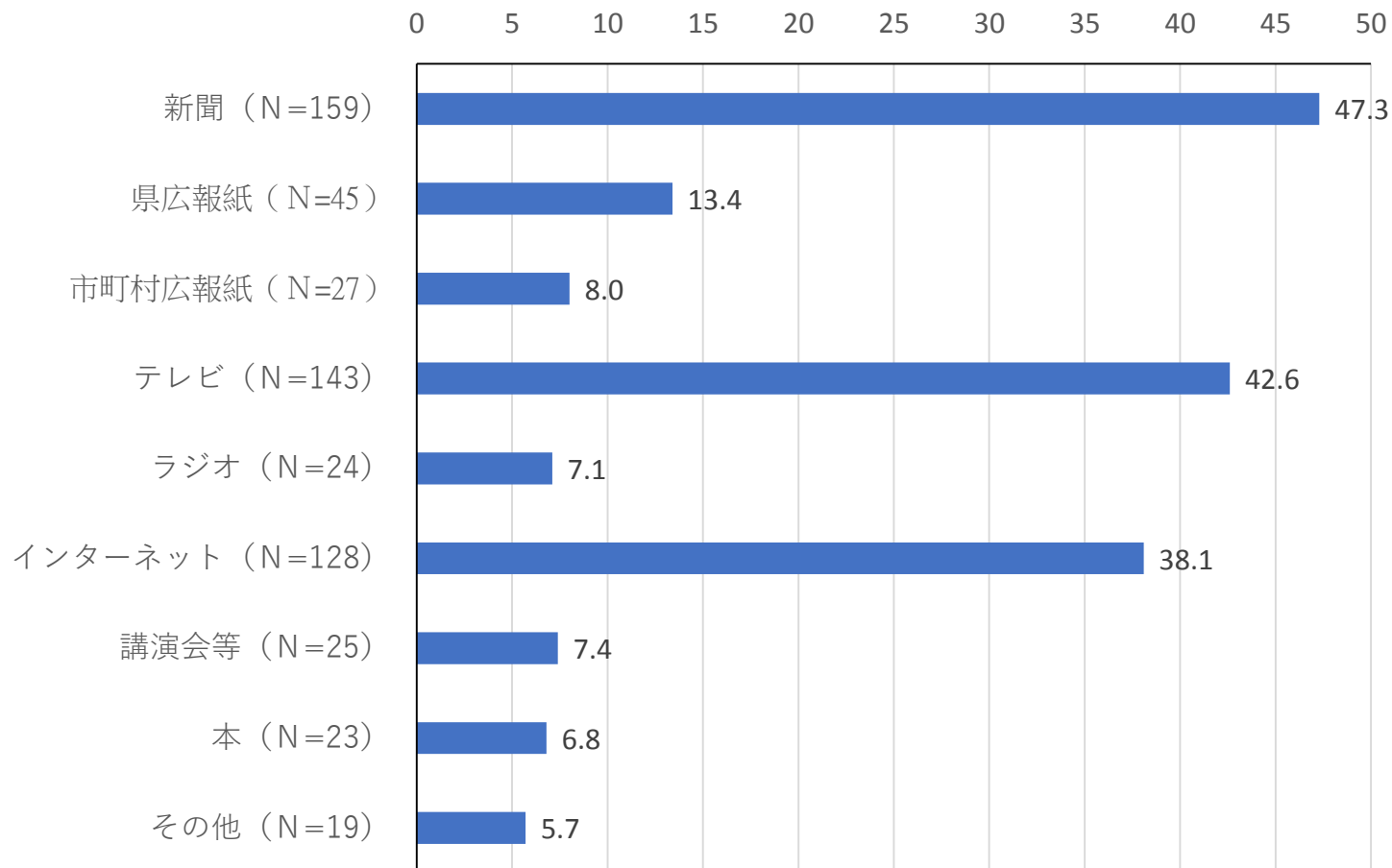
注)本集計は回答者数(2,052人)に対して行っている。

## 2-4 「ヤングケアラー」という言葉を知ったきっかけ

- 「ヤングケアラー」という言葉を知ったきっかけ（N=336）をみると、「新聞」（N=159）が47.3%と最も高く、次いで「テレビ」（N=143）42.6%、「インターネット」（N=128）38.1%と続く。

図表2-4. 「ヤングケアラー」という言葉を知ったきっかけ（複数回答）

単位：%

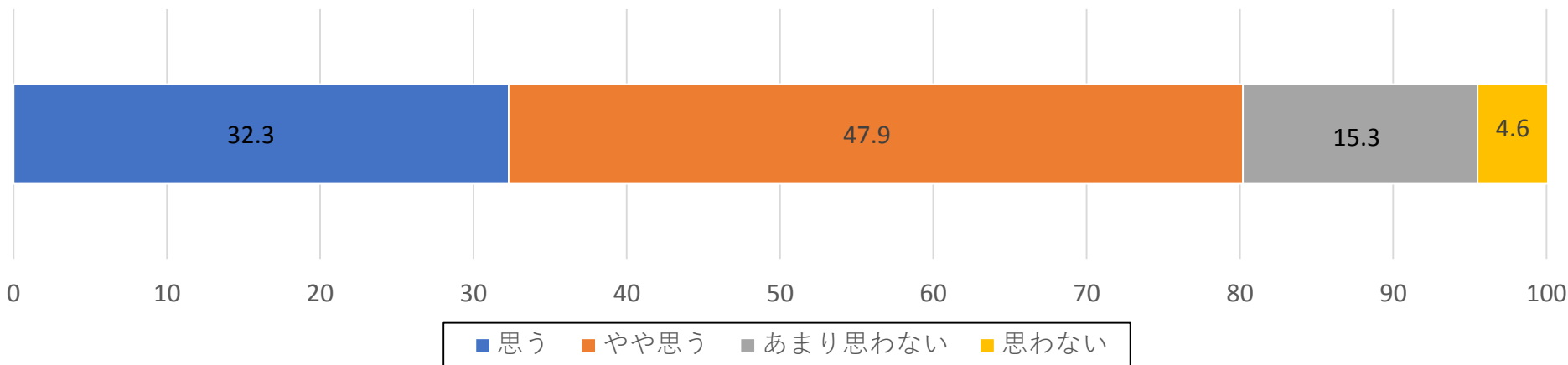


注)本集計は回答者数(336人)に対して行っている。

## 2-5 ケアで困っている人への手助けについて

- ケアで困っている人がいたら、できることがあれば手助けしたいと思うか（N=2,052）をみると、「やや思う」（N=982）が47.9%と最も高く、次いで「思う」（N=662）32.3%、「あまり思わない」（N=313）15.3%と続く。

図表2-5. 手助けをしたいと思うか否かの割合



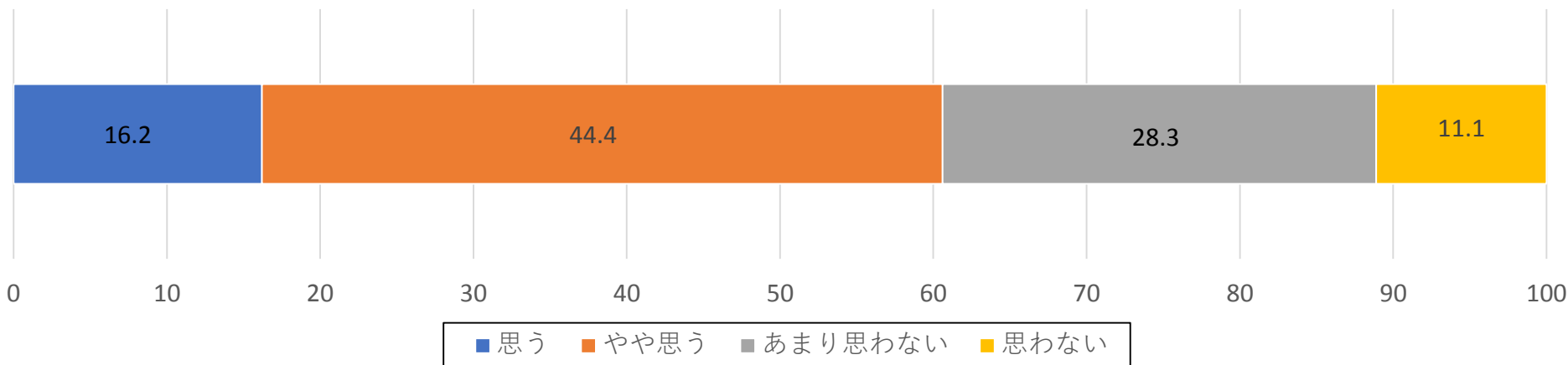
	思う	やや思う	あまり思わない	思わない
回答者数 (N=2052)	662	982	313	95
割合 (%)	32.3	47.9	15.3	4.6

注)本集計は回答者数(2,052人)に対して行っている。

## 2-6 ケアラー・ヤングケアラーに関する研修会への参加意欲について

- ケアラー・ヤングケアラーの状況や支援の必要性、支援策等について知る機会があったら参加したいと思うか（N=2,052）をみると、「やや思う」（N=911）が44.4%と最も高く、次いで「あまり思わない」（N=580）28.3%、「思う」（N=333）16.2%と続く。

図表2-6. 研修会等への参加意欲の割合



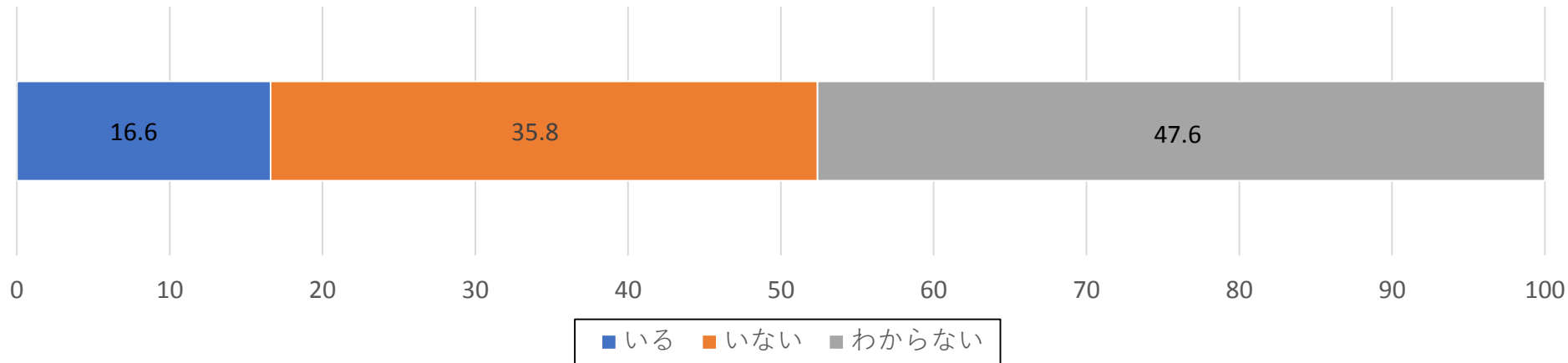
	思う	やや思う	あまり思わない	思わない
回答者数 (N=2052)	333	911	580	228
割合 (%)	16.2	44.4	28.3	11.1

注)本集計は回答者数(2,052人)に対して行っている。

## 2-7 周囲のケアラー・ヤングケアラーの存在

- 自身の周りにケアラー・ヤングケアラーと思われる人がいるか（N=2,052）をみると、「わからない」（N=977）が47.6%と最も高く、次いで「いない」（N=735）35.8%、「いる」（N=340）16.6%と続く。

図表2-7. 周囲のケアラー・ヤングケアラーの存在の割合



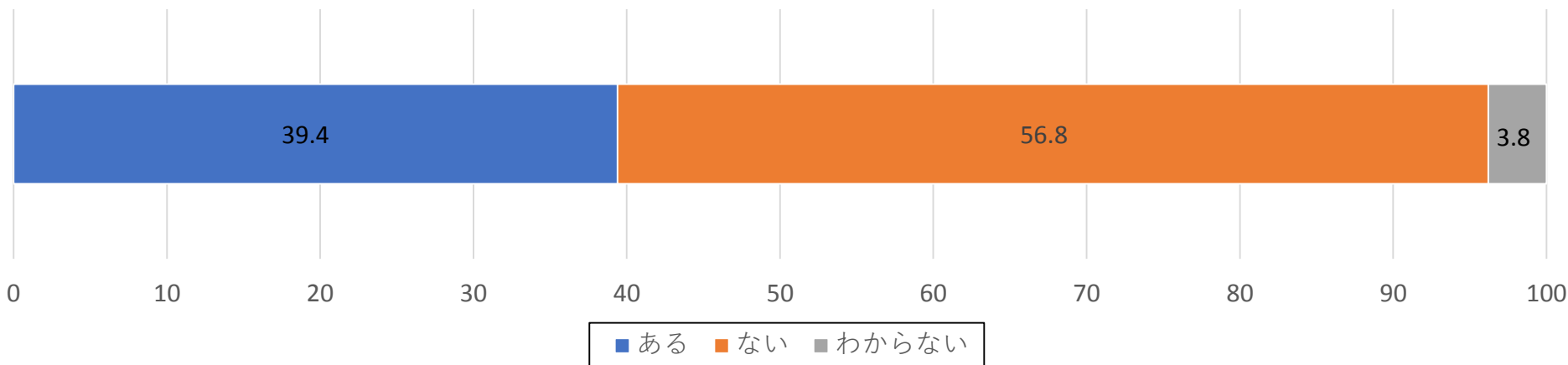
	いる	いない	わからない
回答者数 (N=2052)	340	735	977
割合 (%)	16.6	35.8	47.6

注)本集計は回答者数(2,052人)に対して行っている。

## 2-8 ケアラー・ヤングケアラーからの相談

- 自身の周りにケアラー・ヤングケアラーがいる回答者（N=340）が、ケアラー・ヤングケアラーから相談を受けたことがあるかをみると、「ない」（N=193）が56.8%と最も高く、次いで「ある」（N=134）39.4%、「わからない」（N=13）3.8%と続く。

図表2-8. ケアラー・ヤングケアラーからの相談の有無の割合



	ある	ない	わからない
回答者数 (N=2052)	134	193	13
割合 (%)	39.4	56.8	3.8

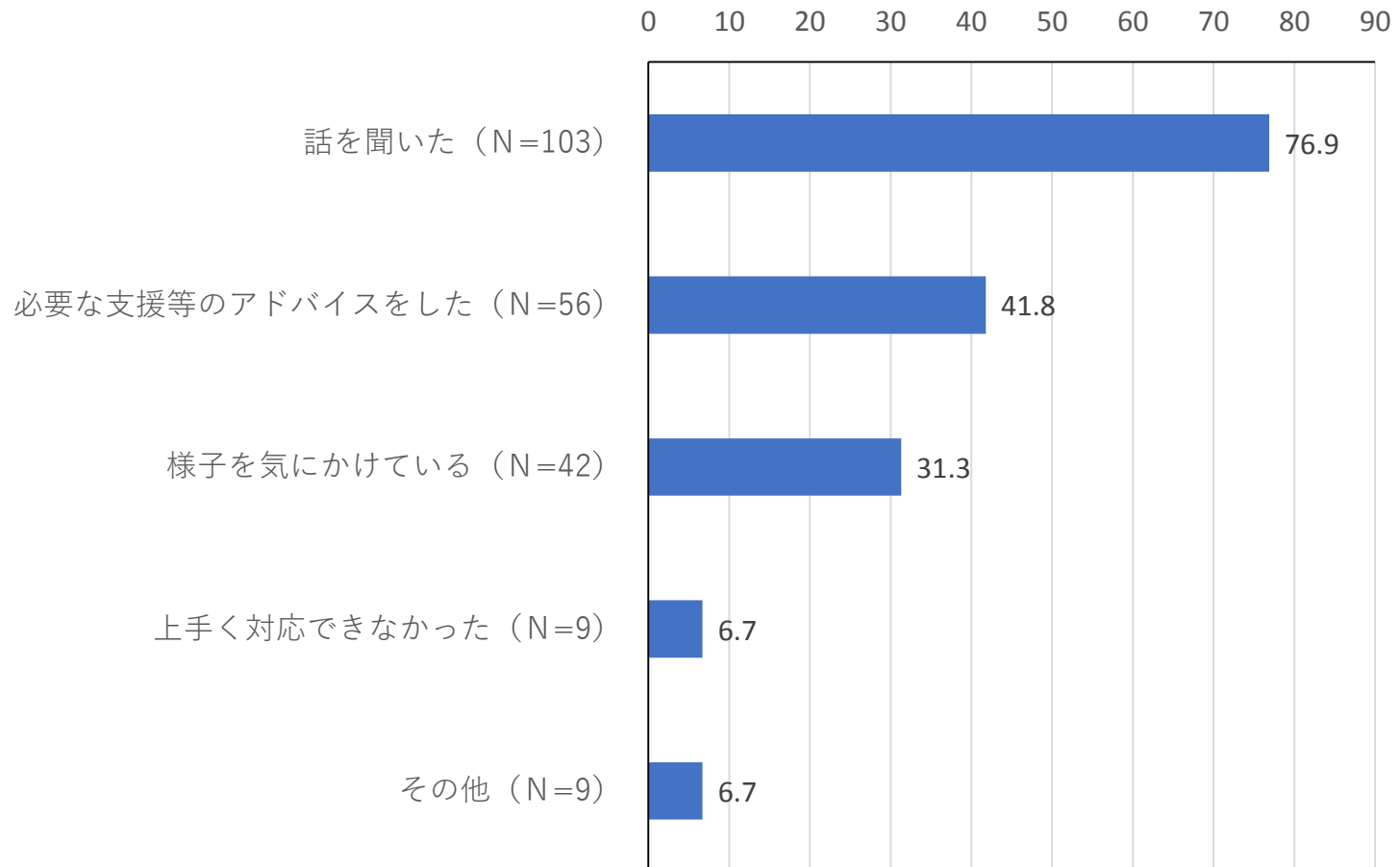
注)本集計は自身の周りにケアラー・ヤングケアラーと思われる人がいる回答者数(340人)に対して行っている。

## 2-9 ケアラー・ヤングケアラーからの相談に対する対応

- ケアラー・ヤングケアラーから相談を受けたことがある回答者（N=134）の相談対応をみると、「話を聞いた」（N=103）が76.9%と最も高く、次いで「必要な支援等のアドバイスをした（相談機関の情報を伝えることも含む）」（N=56）41.8%、「相談を受けて以降は定期的に様子を気にかけている」（N=42）31.3%と続く。

図表2-9. ケアラー・ヤングケアラーからの相談に対する対応（複数回答）

単位：%



注)本集計はケアラー・ヤングケアラーから相談を受けたことがある回答者(134人)に対して行っている。

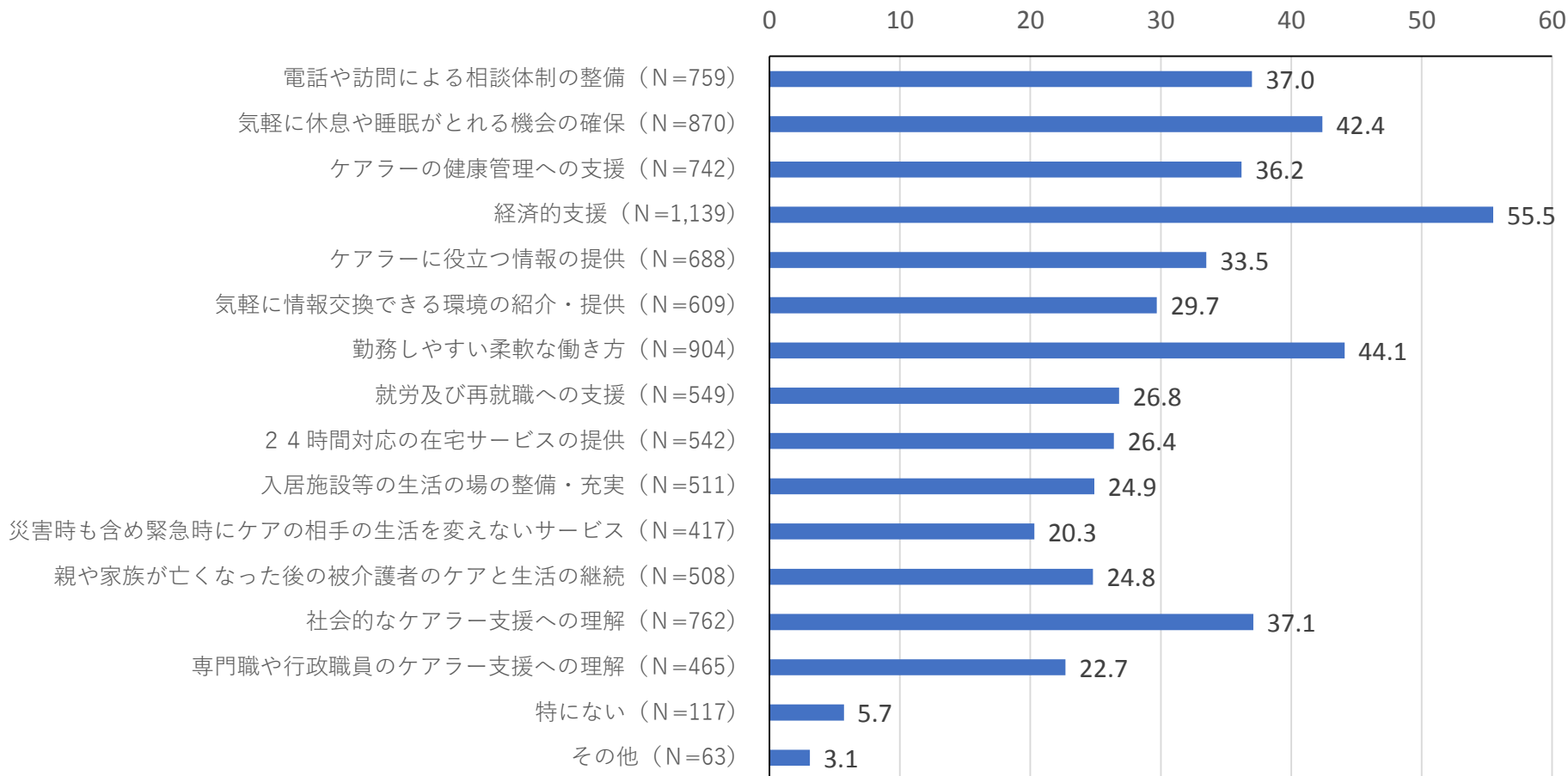


## 2-10 ケアラーへの支援

- ケアラーに必要と思われる支援（N=2,052）をみると、「経済的支援」（N=1,139）が55.5%と最も高く、次いで「勤務しやすい柔軟な働き方」（N=904）44.1%、「気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保」（N=870）42.4%と続く。

図表2-10. ケアラーへの支援（複数回答）

単位：%



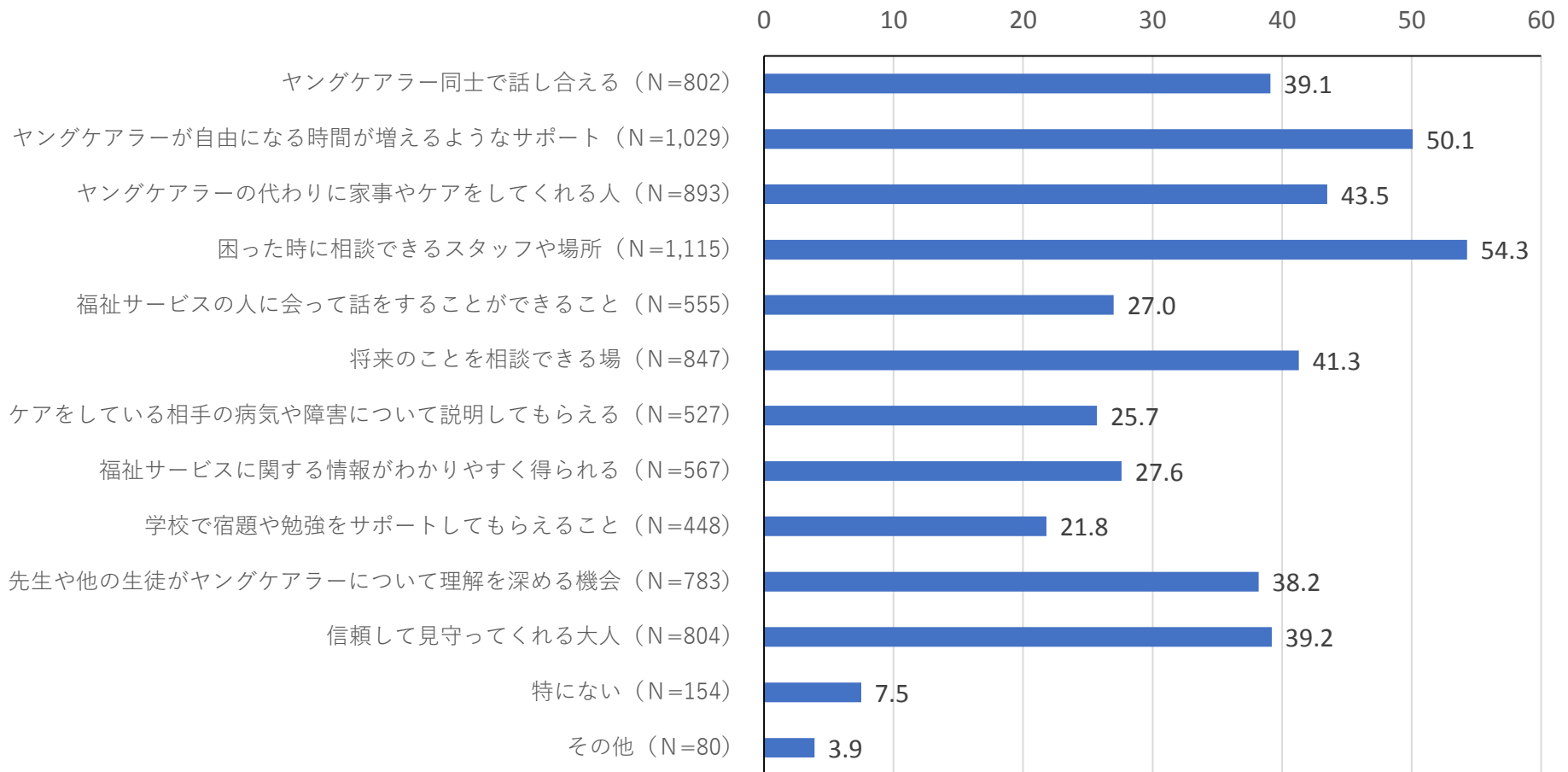
注)本集計は回答者数(2,052人)に対して行っている。

## 2-11 ヤングケアラーへの支援

- ヤングケアラーに必要と思われる支援（N=2,052）をみると、「家族の病状が悪化するなどヤングケアラーが困った時に相談できるスタッフや場所があること」（N=1,115）が54.3%と最も高く、次いで「ヤングケアラーが自由になる時間が増えるようなサポートがあること」（N=1,029）50.1%、「ヤングケアラーの代わりに家事やケアをしてくれる人がいること」（N=893）43.5%と続く。

図表2-11. ヤングケアラーへの支援の割合

単位：%



注)本集計は回答者数(2,052人)に対して行っている。

### 3. 調査結果の概要（自由意見）

## 3-1 自分ができるような具体的な支援について（自由意見）

- 自身の身近にケアラー及びヤングケアラーがいたとして、どんな支援ができそうかについて、主な意見は以下のとおりであった。

- できる限り話を聞いてあげる。
- 初めて聞いた言葉なので、まだ想像できない。
- 毎日の見守り、緊急時の連絡。
- 介護保険の情報や地域包括支援センターの案内をする。
- 買い物やごみ出しなどの日常生活の支援。
- 短時間の簡単なケアの代行や経済的支援。
- 最近テレビの報道番組で存在を知ったのですが、公的支援の手を差し伸べる前に、家族や身内での話し合いからできるのでは。

## 3-2 ケアラー・ヤングケアラー支援への期待や意見、要望（自由意見）

- 今後のケアラー・ヤングケアラー支援施策に対して期待することや意見、要望などについて、主な意見は以下のとおりであった。

- 民生委員をしています。ケアラーやヤングケアラーの存在の情報提供をしてほしい。
- ケアラーやヤングケアラーという呼び名に、正直やや抵抗がある。とにかく孤立しないことを意識した支援が必要だと思う。とはいえ、近づきすぎても逆効果だと思うので、「どうしても困ったときはここが助けになってくれる」という信頼できる場や人との繋がりが持てる社会であって欲しい。
- まずは、ケアラー及びヤングケアラーという言葉や定義をもっと啓発することが必要。
- 成人済みの人には経済的支援、学生には将来含め相談ができる環境、そして先生たちの配慮が必要だと感じました。
- 身内の介護はケアする人の意志と関係なくせざるを得ない人も多いです。とにかくどこでも誰にでも相談して共有し、使えるサービスは使い、頼れる人には頼ってほしいです。
- 学校では教員や他の生徒がヤングケアラーについてあまり知らず、ヤングケアラーを孤立に追いやっている面があるので、まずそうした点の解消を目的として理解を深める施策を実施してほしいです。
- スクールカウンセラーをしている関係上、学校に来ないで家の仕事、家族の看病や世話をしている子供たちを見ている。ケアラーという概念が存在していることを、広く世間に知ってもらい、理解を深めることの必要性を強く感じます。
- 子育てもそうなのですがとにかく孤立させないことかなと思います。ケアラーさんがケアから少しでも離れて息抜きできるような仕組みを提供してほしいと思います。
- 普段ケアラーと接する機会の多い専門職の方向け研修などを通して、さらなる理解を深めていただきたいと思います。